令和８年度　城北高等学校　第２回学校運営協議会　概要

令和８年１１月１２日（木）１８時００分～１９時４５分

場所：校長室

出席者（委員）　敬称略（あいうえお順）

大 栗 一 敏　（地域学校協働活動推進員）
喜 多 真 一　（喜多機械産業株式会社 代表取締役）
栗 原 ひとみ（徳島市城西中学校 校長）
七 條 敬　　（徳島県立城北高等学校 ＰＴＡ会長）
寺 澤 昌 子　（徳島県立城北高等学校 校長）
藤 本 真 路　（国立大学法人徳島大学 理事、副学長）
美 馬 持 仁　（国立大学法人鳴門教育大学 理事、副学長）

欠席者（委員）　敬称略（あいうえお順）

多 田 穣 治　（アール・エスホーム株式会社 代表取締役）
山 崎 眞 弘　（徳島市千松小学校 校長）

（１）開会
（２）校長挨拶
（３）会長挨拶
（４）協議

① 令和８年度の取り組み状況について

ア ６月以降の主な行事について

・６月以降に高校総体、民芸部創立７０周年記念公演、球技大会、理数科学科県外研修、中学生体験入学、城北祭（文化祭・体育祭）、２年生「Ｐタイム」「ＳＰタイム」中間報告会の行事を実施した。
・今後はオープンスクール、終業式・始業式、「Ｐタイム」「ＳＰタイム」最終成果発表会、第３０回定期演奏会を予定している。

イ 部活動の入賞記録について

・顕著な実績として、男子剣道部（県指定競技認定）のインターハイ出場および県内大会上位入賞、ライフル射撃部女子生徒が全国ライフル射撃選手権大会での大会新記録・全国優勝、陸上競技部女子生徒が４００m・４００mハードルでの大会記録更新を収めた。また、徳島ヴォルティスＵ－１５所属の野村選手（１年生）がＵ－１５日本代表に選出され、フランス国際大会で得点を挙げた。
・全国大会出場を経て作品の背景まで深く調べて表現するようになった書道部員の成長や、フランス国際大会での得点後も次戦を見据える野村選手の気迫など、生徒の主体的な成長が見られる。

ウ ４５分授業アンケート結果について

・導入から半年が経過した４５分授業に関する生徒アンケート（対象約６６０名、回答率８割超）では、「授業への集中力が向上した」が７７．３%、「授業スピードがちょうど良い」が約８０%、「演習・話し合い時間が十分に確保されている（または変わらない）」が８３～８５%となり、総じて肯定的な評価が定着している。
・約５０%の生徒で予習・復習時間が増加し、約４０%が「予習しないと授業についていけない」と回答するなど、自学自習の習慣化に向けた意識変容が見られる。また、約２０%で睡眠時間が増加し、約６０%で身体的疲労の軽減や学校生活の充実度向上が確認された。
・帰りのＳＨＲが１５時５５分に早まったことで放課後に「為せば成るタイム（３５分間）」が生まれ、二者面談や自学自習、教員間の教材研究・打ち合わせが活性化している。

エ 生徒総会の要望について

・従来の生徒総会における要望の形骸化を解消するため、生徒会役員と有志生徒で構成する「Ｊ．Ｕ．Ｃ（城北アップデート委員会）」を新設し、全校アンケートや運用ルールの策定まで生徒自身が行う仕組みを構築した。
・今期は、雨天時のカッパ下への体操服着用登校および平常時のスニーカー登校が実現した。
・委員からは、運用案を自ら考えて合意形成を図るプロセスは、社会で求められる主体的な学びに直結しているとの高い評価が寄せられた。

オ 本校職員の勤務時間集計結果（４月～９月）について

・県教育委員会の勤務可視化ダッシュボードによる集計の結果、４月の平均時間外労働は４７．４時間であったが、５月～９月は国の指針である「月４５時間以内」を達成した。また、４月～９月の全月で前年度の在校等時間を大幅に下回った。
・定期考査期間中の１７時完全退勤推奨や、毎月の給与日を「働き方チェックの日」とする個別の声かけ、さらには４５分授業による放課後のゆとり創出により、夏季休業中（８月）を含め「長時間勤務を美徳とする」従来の意識からの転換が進んでいる。

カ ＤＸハイスクール推進事業について

・指定３年目の「ＤＸハイスクール事業」では、３Ｄプリンターを活用した地理探究の立体地形模型作製や文化祭での来場者への景品制作、プログラミングドローンによる空撮・実習などを実施しており、１２月１６日には県教育長による実習視察が予定されている。

キ 高校教育特色化・魅力化推進スタートアップ事業について

・１２月に京都大学の講師を招聘した「学力観の再構築」に関する校内研修を実施予定である。

② 意見交換「本校のさらなる特色化・魅力化」について

・４５分授業により生まれた放課後の「余白」を、デジタル活用や自学自習、教員・生徒間の対話にどう還元するかが本質である。企業現場でも機械の自動制御やデータ解析を担う理系・デジタル人材の不足は切実であり、高校段階での主体的学びの習慣化は将来の社会人としての基礎力になる。
・中学校では５０分授業が基本であるため、高校での４５分授業化による放課後時間の有効活用や自律的な学習習慣の確立は、中学生や保護者にとっても大きな魅力となり得る。
・本校の優れた施設や部活動（３Ｄプリンターやドローン体験など）を、文化祭の一般公開や出前授業等を通じて地域の小中学生向けに体験型コンテンツとして開放・発信することで、科学やものづくりへの憧れを育み、将来の志願者確保や魅力化につながるのではないか。